『この世界で働くということ』をベースに

仕事に現れる偶像とは

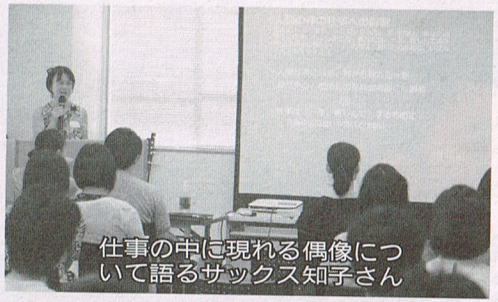
Lightプロジェクト「信仰と仕事ワークショップ」(上)

グレースシティーチャーチ東京(福田真理牧師)信仰と仕事ミニストリー「Lightプロジェクト」の「信仰と仕事ワークショップ」聖書からの「働き方改革」シリーズ2の第2回目が9月8日、東京・新宿区の貸会議室で開かれた。今回はティモシー・ケラー著『この世界で働くということ』(いのちのことば社)5～8章をベースに、「仕事は〝空の空〟?」のテーマで行われた。(第1回目は8月5、12日号で既報)

◇　◆　◇

「Lightプロジェクト」は、「一般社会で働くクリスチャンが、イエス・キリストの光(Light)を職場で輝かせることができるよう、励まし、訓練する」目的で、同教会スタッフのサックス知子さん(同プロジェクト・ディレクター)により始まった。今回は12教会から31人が参加した。

最初にサックスさんがメッセージ。伝道者の書「空の空。伝道者は言う。空の空。すべては空」(1・2)、「日の下で行われるわざは、(中略)すべてほ空しく、風を追うようなものだ」(2・17)などの御言葉を取り上げ、こう語った。「新入社員として仕事を始める時、胸をワクワクさせながら、仕事に取り組むと思う。例えば、仕事で功績を残したい、自分の価値を見つけたい、上司・同僚・部下に認められたい、この業界に何か新しい風を起こしたいと、希望をもって開始する。しかし、伝道者の行き着いた結果は絶望だった」


仕事の中に現れる偶像について語るサックス知子さん

「なぜそうなってしまったのか。それは神様の位置にお金、権力、仕事など他のものを入れてしまったから」とサックスさん。自身もクリスチャンになって最初の6年は、優先順位の最上位は仕事だったと明かす。「人、物だけでなく、仕事も偶像になる。聖書は、貪りを追求することが偶像だと言う。私たちは、神様ではなく仕事(偶像)から安心を得ようとしてしまう。伝道者は『神を恐れよ。神の命令を守れ』(12・13)と言う。結局、私たちの心を満たしてくれるのは神様だけなのです」と語った。

続いて、外資系保険会社でファイナンシャルプランナー(FP)のコンサルタントとして勤務する池上ラファエルさん、オンライン旅行会社で広告営業の仕事をする李麻美さん、日本の製造業の会社に勤務する岡村三子(みね)さんが証しをした。

日本生まれの日本育ちだが、両親が日系ブラジル人で第一言語がポルトガル語という池上さんは、「もともと献身の道に進みたいと思っていたが、やはり仕事をしたいという思いがあって、生命保険会社に導かれた。仕事は好きで楽しい。保険を通してお客様の生活を守れるのは、とてもやり甲斐がある」と話す。

だが、「自分の力で成し遂げていると勘違いしてしまうことがある。お客様に感謝される、信頼されるなど、自分自身の仕事に対する満足や快楽に走ってしまうことがある。その結果、神様に頼らない生活が出て来てしまうことも多々ある」とも明かす。「マタイの福音書に『あなたの宝のあるところ、そこにあなたの心もある』(6・21)とある。仕事上でも、神様を愛することで仕事に有意義なものが出てくると思う。また、一人でできないことも多いので、ここがクリスチャンが集まって励まし合い、助け合うコミュニティーになればと願っています」と結んだ。

岡村三子さん

李麻美さん

池上ラファエルさん

李さんは、アメリカや日本、韓国を転々としてきたと話す。「仕事は何とかこなせても、縦社会や文化的なギャップで慣れることができず、毎年大きな挫折をしては転々と会社を変えていた。信仰生活も自己中心的で、自分の考えと違うと教会も転々と変えていた」

3年前に東京に引っ越してきた。会社は夫の両親が住む米シアトル郊外に本社のある会社だ。単身で日本に来て、「聖書と向き合う時間を持て、信仰生活が大きく変わっていった。仕事も楽しくなった」と李さん。「あらゆる点で主に喜ばれ」(コロサイ1・10)るように働いていきたい」と語った。

会社勤め26年という岡村さんは、「今まで仕事が空しいと思ったことはたくさんあった」と明かす。「例えば、残業や休日出勤をして対応した仕事に間違いが見つかり、やり直しとなった時、空しくなる。その根っこを突き詰めると、自分の価値が人から認められないということ。それだけでなく、怒る、人のせいにする、妬む、いじける、プライドむき出しの言動が現れてくる。役に立ちたいという動機が崩れていく」

しかし、神様の取り扱いを受け、希望を持てた経験も明かした。「6年前、人手不足から営業支援職になった直後に会社で大がかりな早期退職募集があった。自分に向いていない仕事だと思っていたが、この仕事になっていなければ早期退職を強く勧められていただろう。同じ頃、夫が独立すべく会社を辞めていた。実に絶妙なタイミングで神様に助けられていたと、何年か後に気づいた。神様は仕事に向かう私の心の状況を知っておられる。そして神に祈ること、友と分かち合い祈ることの大切さを教えてくださった」と証しした。(つづく)【中田　朗】